

九国プレ2012

# 国語

九州国際大学附属中学校

## 【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

**字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。**

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

□ ① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

おカネがない社会では、経済活動は物々交換で①行われます。たとえば、魚屋さんで魚を手に入れるためには、魚屋さんが食べたがっている米やお肉を持って行って、魚と交換するのです。

また、物々交換と言っても、②セイカクには、③交換の対象となるのはモノだけではありません。サービスも交換の対象になります。私たち個人が、アルバイトで、あるいは会社社員として「働く」ことは、労働力というサービスを④テキヨウしていることになります。おカネのない社会では、働くことに対する報酬もモノや他のサービスと交換されますから、たとえば、ファストフード店のアルバイトをすると、一時間あたり、コーヒー、ハンバーガー、ポテトを一つずつ受け取るようになります。

□ A、物々交換には大きな障害があります。それは、いつでも交換が可能なわけではないことです。□ B、魚を手に入れた人が、

魚屋さんの欲しいモノを常を持っているとは限りません。□ C、一日一時間だけ働いて⑤シヨクヒを浮かすという働きかたができればいいですが、四時間働いてハンバーガーを四つももらっても嬉しくありません。毎日同じものを食べるのも飽きるはずですが、

□ ③ここで、おカネが登場します。□ D、ここまでの話からすれば、おカネは「交換をするときに、みんなが⑥ヨロコンで受け取るモノ」であればいいのです。物々交換の一方の対象となるモノであって、常に、誰もが、いくらでも欲しいという特徴を持つモノです。おカネが充分にあれば、モノであっても、サービスであっても、何とでも交換できるのです。これが、おカネの④「交換の手段」としての特徴です。もつとも、交換の手段となるためには「いつでも」「いくらでも」欲しいと思われるモノである必要があります。簡単に言えば、保存が簡単で、かつ、腐らないという特徴が必要です。魚や肉は保存のために場所が必要で、しかも、保存しておく腐ってしまいます。そのようなモノは交換の対象には向かないのです。

保存が簡単で、腐らず、かつ価値があるという特徴が、おカネの⑤「価値の保存」という役割になります。⑥タメていても誰も欲しがらないモノでは意味がありませんが、保存が簡単、腐らないという特徴自体が、皆が欲しがるところにもつながっているのです。

なお、皆が欲しがるとは、タメられるという特徴から、そこには「単位」が存在します。一持っていて、一〇持っていて同じというものは、本当の意味で皆が欲しがっているものではありません。皆が欲しがるとは、多ければ多いほどよいという性質を持っている

はずだからです。

これがおカネの⑥「価値の尺度」としての機能です。交換の対象となるためには、保存ができて、かつ、皆がいつでもどれだけでも欲しいという特徴が必要ですが、「皆がどれだけでも欲しい」ということは、その多い少ないに意味があることとなります。多い・少ないを表現するには測るための単位が必要で、測ることができれば、尺度として機能するのです。

(永野良佑『金融がやっていること』より)

問一 ㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿のカタカナを漢字に直しなさい。(送りがなが必要なものは、送りがなもふくめて書きなさい。)

問二 A D にあてはまる最も適当な言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア また イ もつとも ウ ところが エ たとえば オ もしくは

問三 ①「行われます」は述語ですが、対応する主語は何ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア おカネが イ 社会では ウ 経済活動は エ 物々交換で

問四 ②「交換の対象となるのはモノだけではありません」とありますが、モノ以外で交換の対象となる具体例を本文中から漢字三字で書きぬきなさい。

問五 ③「ここで、おカネが登場します」とありますが、なぜですか。その理由を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中からあ、い、うは四字で、うは二字で書きぬきなさい。

あでは、い交換がうなわけではない、という障害があるから。

問六 ――④「交換の手段」とありますが、「『交換の手段』となるための特徴」が、本文中では具体的に二つ述べられています。その二つの特徴をまとめて述べている部分を本文中から二十三字で書きぬきなさい。

問七 ――⑤「『価値の保存』という役割」、――⑥「『価値の尺度』としての機能」とありますが、次にあげるア～エの具体例のうちから、おカネが「価値の保存」として働いているものと、「価値の尺度」として働いているものを、それぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 道ばたでお金の入った財布を拾ったので、お母さんに言って警察にとどけた。

イ リサイクルショップで、古びたジーパンに五万円の値段が付いていて驚いた。

ウ お年玉をもらい、預金をするかどうか迷ったが、前からほしかった本を買った。

エ 三十年前の、お父さんが生まれた年の五百円玉を、今でも使うことができる。

問八 この文章の論の展開のしかたの説明について、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 最初に「おカネ」についての結論を示し、その後、さまざまな具体例をあげながら、「おカネ」の重要性を説いている。
- イ 社会の移り変わりの中で「おカネ」が登場したことを段階的に説明し、社会における「おカネ」の働きをまとめている。
- ウ いろいろな具体例を示しながら、「おカネ」が社会に定着しているさまを述べ、「おカネ」の未来にまで話を展開させている。
- エ 「物々交換」の限界を示すことで「おカネ」の万能性を述べているが、それに踊らされている人間のおろかさを嘆いている。

〈問題は次のページに続きます〉

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈太輔は両親を事故で亡くし、施設にあずけられている小学三年生の男の子で、それぞれ同じように事情をかかえている、佐緒里・淳也・麻利・美保子とともに生活をしている。ある日太輔は、中学生で一番年上の佐緒里と町の夏祭りに行き、『願いとばし』をする約束をしていたが、その約束をやぶられてしまう。次の場面は、夏祭りの翌日の場面である。〉

「こっち、こっちこっち！」麻利は迷わずに①裏庭のほうへと太輔を導く。こっちは、あれだ、確か、もう使われなくなったチャボの小屋がある方向だ。あの角を曲がれば、②雑草で溢れ返った大きな小屋がある。

麻利は③素早く小回りするので、角に肩をぶつけそうになる。④蝉とカエルの鳴き声に足元をすくわれそうになりながら、太輔はやっと角を曲がった。

② 雑草が、きれいになくなっている。

「おかえりなさい」

エプロンをした美保子が、真っ赤なくちびるを動かして言った。口紅を塗っているみたいだ。雑草が取り払われた小屋の中には青いビニールシートが敷いてあって、美保子はその隅に置かれた机の上で料理の真似事をしている。

「遅かったじゃない、もうご飯できてるわよ」

「ご、ご飯できてるで、太輔」

淳也の顔には、マジックで髭が描かれている。全然似合っていない。「……ご飯やで」何を言っているかわからないのか、シートの真ん中であぐらをかいて、持たされている古新聞を⑤熟読しているふりをしている。

「ほら、家なんだからクツぬいで」

かかどが入っていないなかったスニーカーを麻利に取られる。靴下のまま、ビニールシートの上に立つ。下に小石があるのか、足の裏が痛い。「おかえり、太輔くん。ハイ、これ太輔くんの」

佐緒里は、いつもどおりの制服姿で、何か差し出してきた。

「おはしはな、うちが見つけてきたんやで！ハイこれはお兄ちゃんのぶん」

「お父さんやろ、麻利」

ややこしいなあ、と、麻利が木の棒を二本ずつ、シートの上に置いていく。同じような長さ、細さの、木の棒。さっき洗ったのか、まだしつとりと濡れている。「おはしっぱいもの見つけるの、けっこうたいへんやったんやで」

佐緒里から差し出されたのは、平べったい石の上に並べられた小さな石、細い草。

「これがハンバーグで、これがサラダな」麻利がテキパキと説明してくれる。

針金の金網かなあみだけ残されたチャボの小屋は、こうしてきれいに掃除そうじされると、まるで家みたいに見えた。

「これ、なに？」

「③家族！」

麻利が、パツと両手を広げた。

白いエプロンに似合わない口紅をして、④まんざらでもなさそうな美保子。黒いマジックで髭を描かれて、恥ずかしそうにしている淳也。シートの上で裸足はだしになって、びよんびよん飛び跳ねている麻利。家はチャボの小屋、床ゆかは青いビニールシート、木の棒でつくられたおはし、石の皿とハンバーグ、草のサラダ。

「ミホちゃんが、お母さんで、淳也くんがお父さん。私が太輔くんのお姉ちゃん、麻利ちゃんが末っ子」

なんで佐緒里姉ちゃんのが年上やのにミホちゃんがお母さんなん？ ミホちゃんがどうしてもエプロン着たいって言い張って大変やったんよ。淳也と麻利のひそひそ話は美保子にも筒抜けつつみだったが、美保子は顔色ひとつ変えずに髪かみの毛を手ぐしでといている。

「昨日は本当にごめんね」

⑤一生口をきいてやらない、と、ぎゅつと心の中に固めたもやもやの塊かたまりが、お湯の中に入れた氷の粒つぶのように、形をなくしていく。「これで願いとばし、できないかな」

⑥佐緒里は、眉まゆを下げて太輔のことを見つめている。

「家族だよ。だから、願いとばし、していいんだよ」

朝から雑草を抜き、いろんなところからいろんなものを◎調達し、即興でつくりあげてくれた家。  
「家族……」

太輔が声を漏らすと、右手をぎゅっと麻利に握られた。えへへ、と、下から顔を覗き込まれる。

「お兄ちゃんがもうひとりできた」

麻利はそう言って、もう一度ぎゅっとてのひらに力を込めた。小さなてのひらは握りしめる力が弱くて、⑦太輔はなぜだか、ちよつとだけ泣きたくなった。

問一 —— ㉔㉕の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

(朝井リョウ『ひからない蛍』より)

問二 —— ①「蝉とカエルの鳴き声に足元をすくわれそうになりながら」とありますが、どのような様子を表していますか。最も適当なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア 蝉とカエルの鳴き声に、おどろき、足がもつれてしまいそうになる様子。

イ 蝉とカエルの鳴き声が大きくて、足が震え、まったく前に進めない様子。

ウ 蝉とカエルがあまりにもまぬけな声を出すので、こけそうになる様子。

エ 蝉とカエルがうるさくて、足で地面をふみならし、いらいらしている様子。

問三 —— ②「雑草が、きれいになくなっている」とありますが、なぜ、雑草がきれいに取り払われていたと考えられますか。次の文の空らんにあてはまる言葉を考えて、十字以内で答えなさい。

〈雑草をきれいに取り払って、小屋を  ため。〉

問四 ――③「家族！」とありますが、この家族は何のために作られたのですか。□  
をするため」となるように、空らんにあて  
はまる言葉を、本文中から五字で書きぬきなさい。

問五 ――④「まんざらでもなさそうに」に使われている、「まんざらでもない」という言葉を使い、短い文を作りなさい。なお、「まんざらでもなく」など、形を変えても構かまいません。

問六 ――⑤「一生口をきいてやらない、と、ぎゅつと心の中に固めたもやもやの塊が、お湯の中に入れた氷の粒のように、形をなくしていく」というのは、たとえを使い、太輔の気持ちを述べたものです。この時の太輔の気持ちを説明した次の文の空らんらんに、あてはまる言葉を考えて、書き入れなさい。

〈佐緒里とけんかをしていて、佐緒里とは絶対話さない、と心に決めていたが、佐緒里の「昨日は本当にごめんね」という言葉をきっ  
かけにして、□。〉

問七 ――⑥「佐緒里は、眉を下げて太輔のことを見つけている」とありますが、佐緒里の、どのような気持ちを表していますか。最も適  
当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 佐緒里が、太輔に許してほしいと、強く願っている様子。

イ 佐緒里が、太輔に対して冷静に接しようと、注意をしている様子。

ウ 佐緒里が、太輔に対する心配事が解決して、ほっとしている様子。

エ 佐緒里が、太輔と「願いとぼし」ができないかと、同意を求めている様子。

問八 ――⑦「太輔はなぜだか、ちよつとだけ泣きたくなくなった」とありますが、このときの太輔の気持ちを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、とは、五字以内で、は二字の漢字を考えて書きなさい。は本文中から二字で書きぬきなさい。

〈年下の麻利も自分と同じようにを感じながら生きていて、ここにいるみんなが同じをかかえているのに、自分のためにを作ってくれたことに、する気持ち。〉

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一 後の語群「」の中ごぐんのひらがなを漢字になおして、類義語（意味がよく似たことば）と、対義語（意味が反対や対たいになることば）を書きなさい。ひらがなは一度だけ使い、漢字一字を書きなさい。

【類義語】

厚意 — ① 切

返事 — 応 ②

【対義語】

延長 — ③ 縮

利益 — ④ 害

語群「たん・かい・とう・せつ・こう・そん・しょう・しん」

問二 以下の言葉は慣用句です。それぞれのに共通する体の一部を表す言葉を答えなさい。

が立つ

がない

が鳴る

① が利きく

② をつぶる

③ によりよりをかける

が売うれる

もくれない

があがる

問三 次のに漢数字を入れて、ことわざを完成させなさい。

① 一寸の虫にも分のたましい

② 悪事里りを走る

③ 石の上にも年

一

問一	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
----	---	---	---	---	---

問二	A	B	C	D
----	---	---	---	---

問三		問四	
----	--	----	--

問五	あ		い		う	
----	---	--	---	--	---	--

問六	
----	--

問七	「価値の保存」	「価値の尺度」
----	---------	---------

問八	
----	--

二

問一	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
----	---	---	---	---	---

問二		問三	
----	--	----	--

問四	
----	--

問五	
----	--

問六	
----	--

問七	
----	--

問八	A		B		C		D	
----	---	--	---	--	---	--	---	--

三

問一	①	②	③	④
----	---	---	---	---

問二	①	②	③
----	---	---	---

問三	①	②	③
----	---	---	---